

# 永原小学校からの報告

活動団体名： 永原小学校 4年生

活動人数： 16人（教員2名）

取組時間：総合的な活動の時間

## 調査内容

1回目：5月24日（火） 大浦川中流山門地区 晴れ  
2回目：6月8日（水） 大浦川下流駅前地区 曇り

### 【第1回水生生物調査（大浦川中流）】

子ども達は、初めての水生生物調査だったので、「魚やサワガニがとれるかも。」という程度の予想で調査に臨みました。いろいろな生き物を採取していくうちに、「初めて見た。」「こんな生き物がいたんだ。」という声が上がりました。調査の講師には、布施義明先生に来ていただきました。採集の方法や生物の見分け方などを丁寧に教えていただき、ペアで協力して調査することができました。慣れてくると、自分たちで考えながら水生生物のいそうな場所に行って採取する子どももいました。水生生物の特徴をとらえ、カードを見ながら水生生物の名前や種類を調べる子や自分で仲間分けをする子もいました。

### 【第2回水生生物調査（大浦川下流）】

今回も講師として布施先生に来ていただきました。子ども達は2回目の調査ということで、慣れた手つきで生き物を採取していました。上流との川の流れの違いに注目する児童や、ヨシの多さなど周囲の環境を比べる児童、川底の違いに気づく児童の姿等がたくさん見られました。魚が多く見つかった理由は、琵琶湖が調査地点から近いこと、ヨシなど魚がかくれるところが多いことやスジエビなどえさになるエビが多いことがあると考えられます。



## 調査員の感想

- 山門や駅前の水がきれいによかった。
- はじめて見る生き物がたくさんいて驚いた。
- きれいな大浦川を大切にしていきたい。
- 大浦川の先にある琵琶湖の透明度や、生き物について気になった。
- 山門水源で生まれた水にたくさんの生き物がいて驚いた。
- きれいな川を保つには、川だけでなく水源や森を守ることが大切だと考えた。

## 捕まえた生き物たち

大浦川中流の山門地区では、サワガニ、ヘビトンボ、オニヤンマのヤゴ、カワゲラ、トビケラ等が見つかった。また、貴重な生き物としてツチガエルや、ナゴヤダルマガエルが見つかった。

大浦川下流の駅前地区では、オニヤンマのヤゴやカワニナ、イトミミズ、カジカ、スジエビ、ヤナギモ等が見つかった。



## 調査のまとめ

本調査の結果は、大浦川中流と下流は「I きれい」の判定だった。昨年の下流の判定は「II 少しよごれている」だったため、水環境が昨年よりも改善されたと考えられます。しかし、前日に雨が降り、川の流量が増え指標生物が上流から流れてきた可能性もあるため、来年度も引き続き調査を行い、結果を見ていく必要があります。

子ども達は調査を通して、大浦川にはたくさんの生き物が生息していることや、生き物たちにとって生息しやすい環境であることに気づくことができました。また、総合的な学習の時間の山門学習に水生生物調査を組み入れることで、山から川への水のつながりを実感できました。

また、川だけでなく森林も保全することが大切だということに気づけたと考えます。本活動が、子ども達が住んでいる地域を愛し、地域の自然を大切にし、環境問題について考えるきっかけになることを願っています。

# 活動の様子

【山門地区で生き物を採取する様子】



【山門地区で流速を計測する様子】



【採取した生き物について聞く様子】



【生き物を観察する様子】



【駅前地区で生き物を採取する様子 1】



【駅前地区で生き物を採取する様子 2】



【採取した生き物を観察する様子 1】



【採取した生き物を観察する様子 2】

